

事業名 旭竜居場所づくり事業

事業主体 旭竜学区連合町内会

事業実施場所 旧旭竜幼稚園 (岡山市中区中島 50-1)

～事業を始めるにあたって～

<高島中学校区にある旭竜小学校区について>

旭竜地区は岡山駅から東へ二駅の高島駅が最寄りという利便性の高い地域だが、旭竜小学校(高島中学校区)の児童数が現在約160人で全盛期の五分之一に落ち込んでおり、岡山市内でも高齢化率が特に目立つ地域。一方、同じ中学校区にある高島小学校の児童数はこの10年で少しずつ増加しており、1,000人を超す市内でも有数のマンモス校になっている。

<旭竜小学校区の現状とこれから>

居住年数が浅い子育て世帯も多く、地域の情報に乏しい孤立しがちな未就園時親子の居場所をつくり、そして妊娠期から近所に知り合いを増やしておくことで、地域で安心して子育て出来るようになる。高齢者世代と子育て世代をつなぎ、多世代が住みやすい環境を整えることが、少子高齢化問題の改善にも繋がる。

そして高島市営住宅の建て替えの要望もでており、ますます若い世代の増加が見込める地域だが、子どもたちの遊び場が少なく、新型コロナ以降「うるさいと苦情が入った。」「家の前で遊んでいて通報された。」という声が聞こえてくるようになった。

<乳幼児親子、子供たちの居場所>

天候に左右されず、室内で体を動かして子どもたちが遊べる場所が近隣にはなく、長期休みなどでも安心していられる居場所の必要性を感じている。感染症対策を徹底して、多様な人と関われる居場所を提供し、体験活動などを実施することによって、未来を担う子供たちが健やかに成長する機会をつくりたい。

<休眠資源活用>

住民の思い出もある閉園した幼稚園を実施場所にすることで、岡山市の休眠資源の活用という課題においても、持続可能な社会にむけて、地元民間団体、地域の方々が協力し合い、地域住民が運営する良いモデルになる。

～事業実施内容～

体験型交流事業

<第1回>

- ① 事業名 地域とつながる！親子防災講座
- ② 参加人数 祖父母世代1名、親子8組(保護者8名、子ども2名)
その他参加者(YOU TUBE 観覧数:前半34件 後半20件)
(2022.2.19 現在)
- ③ 日時 令和3年7月15日(木)
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 講師:(社)ほっと岡山 代表理事 はっとりいくよ

内容：小さい子供をつれての避難の経験や、避難所の様子、学区周辺のハザードマップなど資料を共有し、体験談なども交えての座談会。連合町内会長から地域での取り組みの話。防災グッズの確認、参加者に配布。後日 YOU TUBE 配信。



⑥ 活動の成果等

「避難所が開設したら、本当に大変な災害の時の練習として、子供を慣れさせるためにも行っておくのがよい。」という声が上がった。地域のハザードマップや避難所の様子が確認でき、参加者からも「参加してよかった。」「また、開催してほしい。」との声があった。

<第2回>

- ① 事業名 きょくりゅう HAPPY マルシェ
- ② 参加人数 計 161 名（保護者 58 名、子ども 103 名）
その他参加者（出店者 39 名（大人 21 名、子供 18 名））
- ③ 日時 令和 3 年 10 月 23 日（土）
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容

岡山市内でこどもの居場所づくりをしている団体、さい子供会、市内のお店、個人に出店いただいた。



⑥ 活動の成果等

駐車場の用意もあったが、ほとんどが徒歩や自転車で地域からの参加であった。コロナで地域行事がなくなるなか、多世代が交流できるイベントにたくさんの方に参加していただいた。三世代家族づれの参加者も見られた。出店された方もたくさんの方々が参加していて驚いていた。また、来年度もこういった多世代の方が参加できるイベントを開催したい。

<第3回>

- ① 事業名 映画観賞会
- ② 参加人数 祖父母世代6名
- ③ 日時 令和3年10月28日(木)
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 プロジェクターにて投影。「オールウェイズ3丁目」を鑑賞。



- ⑥ 活動の成果等
SNSでの告知を控えたため、親子の参加がなかった。もう少し声かけをし、参加をうながせばよかったと思っている。映画の内容がとても懐かしく、参加いただいた方にはとてもよかったと声をかけていただいた。

地域ぐるみ会議

<第1回>話し合いのテーマ～旭竜の未来を考えよう！～

- ① 参加人数 7名
参加者：旭竜学区連合町内会長、高島公民館職員
高島・旭竜学区住民
- ② 日時 令和3年11月13日(土)
- ③ 場所 旧旭竜幼稚園
- ④ 内容



旭竜小学校にて配布回収したアンケート結果をみながら、参加者の所感を発表。グループに分かれ、旭竜学区周辺の簡単な地図に、危ないところ、こうなってほしいなどを貼っていき、全体で共有。連合町内会長が持参した、高島駅周辺再開発の資料を見ながら話し合い。次回の課題提供。

- ⑤ 活動の成果等
実際に町内会から直接声を聞くことにより、普段どういう活動をしているのかわかった、住民の声を聞いていただけていると実感したとの声があった。地域開発に詳しい旭竜学区住民の方も参加しており、市の開発の仕組みやスマートシティなどの取り組みについても知ることができた。専門的な話も聞くことができ、充実した話し合いとなった。

<第2回>話し合いのテーマ～旧旭竜幼稚園と高島駅前、高島駅周辺開発について～

- ① 参加人数 6名
参加者：旭竜学区連合町内会長、旭竜学区民生委員
八幡町内会長、旭竜・高島学区住民
- ② 日時 令和4年1月22日(土)
- ③ 場所 旧旭竜幼稚園



④ 内 容

アンケート結果をもとに、旧幼稚園がどういう場所になると利用しやすいか、どういった場所になって欲しいのか、どのようにすれば管理運営ができるのか、資金面についてもみんなで意見を出し合った。高島駅前周辺開発については、まちづくり協議会を立ち上げたいといった意見など、これからの開発の進め方を聞いた。

⑤ 活動の成果等

アンケートではどの世代の方も『子どもたちがのびのび遊べる施設』にという回答が多かった。旧幼稚園周辺は西日本豪雨の時も道路が冠水し、避難場所の旭竜小学校まで避難ができなかった方がおられたということも話題提供された。コロナ禍、女性・子どもへの配慮のために、一時避難所、分散避難所として活用できないかという話が出た。学童へ通っていない子たちの、放課後の遊び場が必要だという意見には、本事業内で開催中のこどもの居場所の継続的な運営について議論した。

居場所づくり① 計30回 期間7月15日(木)～2月28日(月)

① 事業名 旭竜子どもの居場所

② 参加人数

1. 7/15(木) 保護者2名、子ども2名
2. 7/19(月) 保護者17名、子ども50名
3. 7/26(月) 保護者13名、子ども40名
4. 7/29(木) 保護者8名、子ども22名
5. 7/31(土) 保護者12名、子ども28名
6. 8/2(月) 保護者19名、子ども48名
7. 8/19(木) 保護者4名、子ども6名、中学生ボランティア4名
8. 8/23(月) 保護者9名、子ども17名、中学生ボランティア2名
9. 9/13(月) 保護者2名、子ども2名
10. 9/27(月) 保護者6名、子ども14名
11. 10/11(月) 保護者4名、子ども7名
12. 10/18(月) 保護者5名、子ども15名
13. 10/25(月) 保護者5名、子ども12名
14. 11/1(月) 保護者2名、子ども9名
15. 11/8(月) 保護者1名、子ども6名
16. 11/15(月) 保護者2名、子ども8名
17. 11/22(月) 保護者3名、子ども9名
18. 11/29(月) 保護者2名、子ども12名
19. 12/6(月) 保護者4名、子ども11名
20. 12/13(月) 保護者6名、子ども17名
21. 12/20(月) 保護者2名、子ども16名
22. 12/25(月) 保護者19名、子ども24名
23. 1/11(火) 保護者3名、子ども6名
24. 1/17(月) 保護者4名、子ども11名

- 25. 1/24(月) 保護者 4 名、子ども 13 名
- 26. 1/27(木) 保護者 4 名、子ども 6 名
- 27. 1/31(月) 保護者 2 名、子ども 15 名
- 28. 2/7(月) 保護者 2 名、子ども 13 名
- 29. 2/14(月) 保護者 2 名、子ども 12 名
- 30. 2/19(土) 保護者 13 名、子ども 40 名

- ③ 日 時 令和 3 年 7 月 15 日 (木) ～令和 4 年 2 月 19 日 (土)
- ④ 場 所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内 容 居場所の提供、遊び場の提供、育児相談、学習支援



⑥ 活動の成果等

乳幼児親子が屋外でも室内でものびのびと遊べ、小学生低学年が放課後宿題を持ち寄り、それ終わると友達と遊ぶ姿が見られた。学区の主任児童委員も見守りに参加し、子どもの複合施設のような場所になったのではないかと思う。車で来場できたこともあり、旭竜学区外からも参加があった。単発でなく定期的（週一回）に開けたことによって、興味を持っていただくきっかけになったと感じる。地域の方からは、おもちゃやこども用品の寄付を頂くことも増えた。また、祖父母世代の方から、来年度何かお手伝いができることはないかといった声をいただいた。そのほかでは、子育て支援に興味がある方、すでに支援をされている方たちから連絡をいただくことも多かった。見学にも来ていただき、地域や支援者同士のうれしいつながりができた。

居場所づくり②

<第 1 回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
発達障害のおはなし会
- ② 参加人数 親子 1 組（保護者 6 名、子ども 1 名）
- ③ 日 時 令和 3 年 7 月 19 日 (月)
- ④ 場 所 旧旭竜幼稚園

⑤ 内 容

講師：カラフルキッズの会 にじのね 田中朋子

内容： 個性的な子を持つ親の会の方に来ていただき、悩み困っていることを共有したり事業所などの情報を聞く。



⑥ 活動の成果等

個性が強い子や発達障害など、について。もしかしたら私の子どももそうかもしれないといった思いや、ちょっとした悩みごと困りごとでも、話してみようと感じられる優しい雰囲気の講師だった。1人1人個性の出方が違う子どもを持つ親の悩みも、当事者同士が情報共有することで、安心感や解決策などを得られた。

<第2回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
紙コップ工作の日
- ② 参加人数 親子9組（保護者 9名、子ども 11名）
- ③ 日時 令和3年7月26日（月）
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 7月29日の映画の日で使用する、応援グッズの制作。
その他、紙コップでの工作。



⑥ 活動の成果等

同じ紙コップからでも、子供によって絵を描いたり、ストローをくっつけてみたりして、それぞれの個性が溢れるさまざまな作品が出来上がった。

「これを作りましょう」と見本も用意していたが、子どもたちはお構いなしに自由に好きな作品を作っていて面白かった。未就学児から小学生まで教えあいながら制作をしていた。

<第3回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
映画の日
- ② 参加人数 親子8組（保護者8名、子ども22名）
- ③ 日時 令和3年7月29日（木）
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 『映画しまじろうまほうのしまだいぼうけん』をプロジェクターにて投影。



⑥ 活動の成果等

子供たちの機嫌が悪くなって泣いてしまったり、ほかのことが気になって立ち歩いても、映画館のように周りを気にすることなく子どもと一緒に映画を見れたのはよかった。という感想をもらった。子どもたちは映画をみながら、自由に過ごしていた。

<第4回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
おっ産ずによる
お産劇&子宮・産道体験ワークショップ
- ② 参加人数 親子7組（保護者7名、子ども13名）
- ③ 日時 令和3年7月31日（土）
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容

講師：おっ産ず

内容：命のおはなし。赤ちゃんが生まれるまでをパネル、劇で説明。産道体験。



⑥ 活動の成果等

参加者の方から「普段学校でも体験できないことができてよかった。」と声をいただいた。

子どもたちは興味津々になって聞いていた。性教育という、普段はどのように子供に説明していいかわからない赤ちゃんができるまでの過程を丁寧にわかりやすく説明してくれた。そのため大人も楽しめる内容で、出産経験を思い出して感動した。小学生も将来のために勉強したいとメモを取ったり、ワークショップ終了後に質問をしていた。

<第5回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
水てっぽうバトル
- ② 参加人数 親子3組（保護者3名、子ども37名）
- ③ 日時 令和3年8月2日（月）
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 園庭を使い、大人も子供も一緒になって水遊びをする。



⑥ 活動の成果等

近隣の小学校からも参加があり、大人も子供もびしょぬれになり遊んだ。幼児用プールと大きいプールを分けることにより、トラブルなく遊ぶことができた。子どもたちは知らない大人にも容赦なく水をかけるので、大人も本気になり遊んでいる様子が見られました。

<第6回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
クリスマス会
- ② 参加人数 祖父母世代2名、親子17組（保護者17名、子ども24名）
その他参加者（インスタグラム 観覧数94件 2022.2.1時点）
- ③ 日時 令和3年12月25日（土）
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 講師：田中朋子、西田健太郎
内容：ピアノ、トランペットによる演奏。手遊びなど。
ビンゴゲームにてプレゼント配布



⑥ 活動の成果等

乳幼児から小学生、お父さん、世代まで幅広く参加していただいた。コロナ禍でこういったイベントも減っているため、予約もすぐに埋まった。子どもたちが飛び入りで演奏に参加する場面があったりと楽しい会になった。ビデオカメラ片手に参加してくださった家族も居た。

生のトランペットの演奏はなかなか聞く機会がないので、楽しかった、また参加したいとの声をいただいた。

<第7回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
親子で遊ぶ わらべうたの会
- ② 参加人数 親子4組（保護者4名、子ども4名）
- ③ 日時 令和4年1月27日（木）
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 講師：井上美鈴
内容：わらべうたを通して子育て力をつけてもらおう、子どもの発達を促す。



⑥ 活動の成果等

わらべうたは、かつて孫育ての歌として伝承されてきた。子どもの発達を促したり、生きていくための思いを歌に込めたり、昔の人の知恵がたくさん入っていて、とても奥が深いと感じた。目と目を合わせて拍子をとる意義を学んだり、実際のわらべうたで子供と一緒に遊んだりした。たくさんのお母さんに知っていただきたい内容であった。

<第8回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
プレママ、プレパパ講座 抱っことおんぶの会
- ② 参加人数 親子4組（保護者6名、子ども4名）
- ③ 日時 令和4年2月19日（土）午前
- ④ 場所 旧旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 講師：理学療法士 濱田由紀
内容：赤ちゃんにとって楽な抱っこの仕方。抱っこもの選び方、持参してもらった各自の抱っこひもの正しい付け方を1人1人教わった。



⑥ 活動の成果等

ご夫婦での参加が2組あった。産院では聞けないような抱っこの仕方、縦抱き抱っこによる赤ちゃんの体への負担など、目からうろこの内容だった。「抱っこひもを購入するのは子どもが生まれてからでも遅くない。」「抱っこひもの種類によってメリットデメリットがあるから、ちゃんとから体に合わせたものを使って欲しい。」など、ほんとうは妊娠期に知って欲しい内容であった。参加者の方からは、為になりました、楽しく参加できました、という声をいただいた。

<第9回>

① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座

さよなら旭竜こどもの居場所

駄菓子屋さい子供会が来る！！

② 参加人数 親子7組（保護者7名、子ども32名）

③ 日時 令和4年2月19日（月）午後

④ 場所 旧旭竜幼稚園

⑤ 内容

講師：綸ネット 泉 明佳

内容：駄菓子屋事業をしているさい子ども会（現在綸ネットにて活動）をお願いした。40人分のお菓子を用意していただき、駄菓子引換券にて交換。旭竜子どもの広場を普段利用している参加者には事前配布、残りは当日配布し、整理券、入室制限の上実施。



⑥ 活動の成果等

旭竜子どもの居場所最後の日でした。普段利用してくれている子どもたちに事前に声をかけ、当日もたくさん子どもたちが参加してくれた。子どもたちは、お菓子の前ですごく喜んで1つ1つ買い物をしていました。駄菓子をもらった後は、2歳児と小学校6年生がボールプールでボールの投げ合いをしたり、広場にいた大人も子どもも自然と交流していた様子が見られた。

育成学習会

<第1回> 伝承わらべうた学習会 講師：井上美鈴先生

- ① 参加人数 3名
参加者：子育て広場支援者
- ② 日 時 令和3年8月19日（木）
- ③ 場 所 旧旭竜幼稚園
- ④ 内 容 わらべうたを通じて子どもの発達や、
生きる力を伝承するわらべうたを教わる



⑤ 活動の成果等

現在のわらべうたとは違うふしだったり、わらべうたの意味や手の動きによって子どもの発達を促すことがあるなど、わらべうたには子育てに関するヒントがたくさんあった。子育て支援者には知って欲しい内容であり、また何か機会があればこういった会を開催したい。

<第2回> 地域での子育て支援 講師：小児科医木林京子先生

- ① 参加人数 5名
参加者：整形外科医師、主任児童委員、
子どもシェルター職員

- ② 日 時 令和4年2月14日（月）
- ③ 場 所 旧旭竜幼稚園
- ④ 内 容



子育て支援に関わっている人、子育て支援に興味がある方に向けて「地域での子育てがこれからはなぜ大切になるのか 宝になるのか」についてお話ししていただいた。

⑤ 活動の成果等

50年前は大人の数2人に対して、子どもが1人の割合だった、現在8人に1人くらいであり、今後は10人に1人といった割合になっていく。大人中心の社会環境が出来上がっていく中で、子どもがいかに貴重な存在なのか、その子どもたちが健やかにのびのび育つには、大人たちはどういった心がけが必要なのかを学んだ。地域社会が子育てに対して優しい眼差しをむけ、親だけでなくみんなで子供を育てるという意識を持つことが大切という内容だった。参加者からは、自分自身ができることから始めていきたいといった意見が出された。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

7ヶ月間という短い時間であったが、地域方々が思い入れのある旧旭竜幼稚園に再び子どもの声が聞こえて来たことで、さまざまな波及効果があった。旧幼稚園がどうなるのか気になっていたと、いわれる地元の方々に支援していただけるようになり、それは子育て支援だけでなく、地域のつながりそのものに貢献した。また、小学生の夏休みの遊び場所、放課後の居場所として、毎回一定数の参加があった。乳幼児親子から小学生、そして中学生ボランティアも参加があり、異年齢の子どもたちがふれあえる場になっていた。

活動報告と重複するが、旧幼稚園にて子どもの居場所を開催するということで、子育て支援者の方にも興味を持っていただき、たくさんの方が見学に来られた。

○今後の課題・展開

毎週月曜日 16:30 までという限定的な開催であったため、小学生については低学年の子どもたちしか参加がなかった。学童に行っている小学生も多く、4~6年生は授業が終わるのが 16:00、それから帰宅し、ランドセルを置いて居場所まで遊びに来る時間がないとのことだった。行きたくても行けなかったという声を受け、今後、子どもの居場所としての開催であれば、地域の方の見守りも増やし、18時頃までの開催にする必要があると感じた。

また、地域ぐるみ会議でのアンケート結果にてフリースクールになって欲しいという声が多かったことに驚いている。不登校や学校に行きにくい子たちが来れるような場所が欲しいという需要を、民間レベルで掬い取りたい。

大きな反省点は、第一子妊娠中の方の参加がなかったことだ。(あったのかもしれないが、表面化しなかった) 妊娠期から地域とつながることの大切さを伝えるための事業内容や広報戦略の熟考が足りなかったと言わざるを得ない。妊娠期から地域とつながり、子育て仲間を作ることは、事業開催目的として掲げていたこともあり、今後の事業計画の参考にする。

コロナ禍で開催されていない母親学級父親学級のような役目を持った講座を開催し、地域において妊娠中から乳幼児期、学童期も切れ目のない子育て支援ができるはずだ。

多世代交流という点においては、マルシェなどの参加者が多かったこともあり、一定の目的は達したと感じる。しかし、災害時に助け合えるような関係性まで築いていくのは今後に期待する。

○まとめ

旭竜子どもの居場所には、毎回 15 人ほど遊びに来てくれる人がいました。2 月末で事業終了ということをお伝えすると「これからも幼稚園で遊びたかった。」という子供たちの声が聞こえました。また地域の方からは、とても素晴らしい時間だった、と感想をもらいました。今後、町内会、地域住民も、子どもたちの居場所として開催したい意思はありますが、公的な施設ということで、継続的に借りるということが難しく、どういう形で開催していくのか模索しています。

地域の大人が定期的に子どもたちと接することで、困難を抱える家庭の早期発見につながるという視点を、多くの人と共有することができました。本事業のおかげで、笑顔で子育てするための環境づくりに貢献でき、課題を見つけることができたこと、本当に感謝しています。